



使用上の注意点 (Alert Notes)
SAS 8.2 (TS2M0)
HP-UX 版

はじめに

本書では、SAS のインストール作業を行う際に、あらかじめ知っておく必要のある注意点を列挙しています。インストール作業を開始する前に必ずお読みください。SAS をご使用の際の注意点については、Web サイトで参照することができます。なお、ご不明な点がございましたら、テクニカルサポートまでご連絡ください。

テクニカルサポート連絡先

TEL: 03-3533-3877

FAX: 03-3533-3781

電子メール: support@jpn.sas.com

全般的な注意点

SAS のインストールおよび使用に関する注意点は、本書の他に、下記の通り、Web サイト等においても公開されています。

- ・ 本書の内容を含む『使用上の注意点 (Alert Notes)』の情報の最新のものについては、以下の Web サイトで参照することができます。

<http://www.sas.com/japan/service/technical/alert/> (日本語)

<http://www.sas.com/service/techsup/> (英語)

- ・ このリリースでは、新機能に加え、以前のリリースの不具合の修正も行っています。これらの修正の一覧は、以下の Web サイトで参照することができます。

http://www.sas.com/service/techsup/tnote/tnote_maint.html (英語)

- ・ 本書の内容を含む『使用上の注意点 (Alert Notes)』の情報は、以下の Web サイトで検索することができます。

http://www.sas.com/service/techsup/search/alert_search.html (英語)

- ・ 『使用上の注意点 (Alert Notes)』の情報は、電子メールによって得ることもできます。詳細に関しては、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

<http://www.sas.com/service/techsup/news/tsnews.html> (英語)

- ・ 本書の中の SN-xxxxxx (xxxxxx は数字) は、使用上の注意点を管理するため整理番号です。この番号によって、下記の Web サイトで情報を検索することができます。なお、一部の注意点には、この番号は付けられていません。

<http://www.sas.com/service/techsup/search/sasnotes.html> (英語)

インストール作業における注意点

インストール作業を開始する前に、以下の注意点について、必ず確認してください。以下で用いられている SAS の固有の用語については、その一部が『インストレーションガイド』に掲載されていますので、参照してください。

SN-005508

1 つの端末でインストールを行う際に、CD-ROM メディアの交換ができません。

SAS のインストール作業の際には、途中で CD-ROM メディアの交換のために、mount コマンドおよび umount コマンドを実行する必要があります。従って、SASSETUP コマンドと mount コマンドを実行するためには、通常は、少なくとも 2 つの X 端末ウィンドウが必要となります。

1 つの端末しかご使用になれない場合には、ジョブ制御をお使いください。ジョブ制御は、Korn シェル (ksh コマンド) もしくは C シェル (csh コマンド) のみの機能です。お使いのシェルが Bourne シェル (sh コマンド) の際には、ksh コマンドか csh コマンドによって、シェルを切り替えていただく必要があります。

SN-005460

SAS Setup の実行中にエラーが発生する場合があります。

インストール作業が、SETINIT の問題のために、正常に終了しなかった場合、SAS レジストリ情報の更新に失敗することがあります。

SAS Setup を起動し、「Run Setup Utilities」から「Update SAS registry information」を選択した場合に、以下のエラーメッセージが表示されます。

```
cannot read from /tmp/sas_install####
```

この問題を回避するには、CD-ROM メディアの中の SASSETUP ではなく、インストール時に !SASROOT ディレクトリの下に作成されるファイル sassetup を起動してください。

SN-005246

SETINIT に関するメッセージが表示される場合があります。

インストール作業の途中で、以下のメッセージが表示されることがあります。

```
Your setinit is either expired, invalid, or can not be validated at this time.  
Do you wish to continue?
```

このメッセージは、メディアに含まれている SETINIT に記載されている使用期限が猶予期間か警告期間、又は期限が切れている場合に表示されます。

このメッセージが表示されても、インストール作業を続行してください。詳細については、『インストールガイド』を参照してください。

SN-004666

SAS をインストールするディレクトリは空である必要があります。

SAS 8.2 のインストールは、必ず空のディレクトリに行ってください。空でない場合には、以下のエラーメッセージが表示され、インストールは中止されます。

```
Segmentation Fault   core dumped
```

SN-004461

CD-ROM デバイスをアンマウントできません。

SASSETUP コマンドを CD-ROM デバイスがマウントされているディレクトリ以下で実行し、インストール作業を開始すると、作業の途中で以下のエラーメッセージが表示され、メディアの交換ができなくなります。

```
Device busy
```

この問題を避けるために、SASSETUP コマンドの実行は、必ず CD-ROM デバイスがマウントされているディレクトリ以外の場所（例えば、/cdrom ディレクトリにマウントしている場合は、/cdrom 以外のディレクトリ）から行ってください。

一時的に使用するディレクトリ /tmp の容量不足を指摘される場合があります。

SAS Setup を起動した際に、以下のメッセージが出力されることがあります。

```
Warning: the temporary directory (/tmp) used for the
initial portion of the SAS install does not have enough disk
space to proceed. There must be at least ##### Kbytes
of disk space to download files required by the formal menu
driven portion of the install.
```

```
Please specify an alternate directory to be used by the install.
This should be the directory in which SAS will reside when the
installation is complete.
```

このメッセージは、インストールのために一時的に使用するディレクトリの容量が不足している場合に表示されるものです。この場合には、上記のメッセージに続いて表示される、以下のプロンプトにおい

て、十分な容量のあるディレクトリを指定してください。以下の例では、/tmp ディレクトリの代わりに /var/tmp/sasinst ディレクトリを指定しています。

```
Enter alternate directory or (q) to quit: /var/tmp/sasinst [リターン]
Warning: /var/tmp/sasinst directory does not exist.
Would you like to create it (y|n)? y [リターン]
Install logs being moved to alternate directory, please wait...
```

上記のメッセージが表示され、インストール作業は、通常通り続行されます。

Base SAS

SN-002681

SORT プロシジャは、入力タイプが何であっても TYPE=DATA で出力します。

SORT プロシジャは、常に TYPE=DATA で出力します。これは、予期しない結果を引き起こすことがあります。例えば、次のコードは、オーデイトトレイルデータで上書きされた X.ONE がマスターデータセットになります。

```
PROC SORT DATA=X.ONE(TYPE=AUDIT ALTER=XXX);
```

オーデイトトレイルは、本来は読み取り専用のデータソースです。

SAS の次期リリースでは、読み取り専用と扱うので、ソート結果の出力を行うことなくエラーとします。

SN-004241

単一なインデックスを使用していると、SQL プロシジャは間違ったオブザベーション数を返す場合があります。

下記の条件を満たす場合、SQL は正しくないオブザベーション数を返すかもしれません。

- 1) 変数の別名としてエイリアスが使われている
- 2) エイリアスが使われている変数が SELECT DISTINCT の変数に指定されている
- 3) エイリアスが使われている変数がインデックスの一部である
- 4) テーブルがそれらの変数のサブセットが含まれるインデックスをもっている
- 5) エイリアスの内部の数と1つかそれ以上のインデックス変数の内部の数と同じである

この問題は SAS 8.1 で最初に報告されたものです。

問題が発生するプログラム例は以下の通りです。

```

data test;
  length id 8 year 8;
  input id year;
cards;
1 2000
2 2000
3 1999
4 2000
5 1999
6 2000
7 1999
;
proc datasets nolist lib=work;
  modify test;
  index create id/unique;
quit;
proc sql;
  create table test_a as select distinct year
  from work.test;
  create table test_b as select distinct year as newyear
  from work.test;
quit;

```

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記のアドレスから入手できます。

<http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba07/82ba07.html>

SN-004359

MEANS/SUMMARY/TABULATE/REPORT プロシジャは、分類グループを余計に生成し、出力を表示する際にフォーマットを適用しない場合があります。

MEANS/SUMMARY/TABULATE/REPORT プロシジャは、w.d フォーマットが数値の CLASS もしくは GROUP の変数にあらかじめ割り当てられているとき、分類したグループを余計に生成する場合があります。この現象は、データを分類するときにプロシジャがフォーマットを使用していないために発生します。

グループ分けの際、フォーマットによって数値を丸める必要がある場合にのみ、この問題が発生します。

MEANS/SUMMARY/TABULATE/REPORT プロシジャは出力されたアウトプットにあらかじめ割り当てた w.d フォーマットを適用しない場合があります。

この動作を回避するため、プロシジャ内で数値の CLASS または GROUP 変数にフォーマットを設定するか、データステップで Fw.d を指定します。Fw.d と w.d は同じものですが、Fw.d フォーマットはグループを構成するとき無視されません。

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記のアドレスから入手できます。

<http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba53/82ba53.html>

SN-004451

DBMS へのクエリーの実行は、間違っただ結果を発生させる場合があります。

SQL プロシジャ内で LIBNAME エンジンを使って DBMS のテーブルを照会するとき、不正な結果を得る可能性があります。発行するクエリーが次の条件全てに当てはまる場合、その問題は発生します。

- 1) SELECT に計算箇所が含まれている
- 2) ORDER BY 節が含まれている
- 3) WHERE 節が次の条件のいずれかを含んでいる
 - i) 同じ変数を使用した2つの BETWEEN 演算子
 - ii) 同じ変数を使用した1つの BETWEEN 演算子と1つの NOT EQUAL 条件

例えば、

```
select a,b||c as new, d
from dbmslib.table
where d between 90 and 100 or d between 1 and 10
order by a;
```

もしくは、

```
select a,b||c as new, d
from dbmslib.table
where d between 1 and 5 and d ne 3
order by a;
```

最初の例では、WHERE は DBMS に対し WHERE D BETWEEN 1 AND 10 と発行されています。ここで、最初の BETWEEN 条件は発行されますが、その他の条件はクエリから外されてしまいます。その結果、抽出されるデータは期待されたものとは異なる部分的なものとなってしまいます。

2 つめの例でも、WHERE は DBMS に対し WHERE D >= 1 AND D < 3 と発行されています。つまり、この場合にも一番目の列と同様に、クエリーの一部は省略されてしまいます。(つまり、D=4 と D=5 の条件が外されてしまいます)

この問題を回避するためには、LIBNAME エンジンの代わりに PASS-THROUGH の機能を使用してください。

SN-004462

欠損値があるとき、Q-Q と probability plots は間違っている場合があります。

分析変数に欠損値がある場合、UNIVARIATE プロシジャの QQPLOT ステートメントや、PROBPLOT ステートメントで作成されるグラフが誤ったものとなります。

この問題を回避するには、WHERE ステートメントを利用し欠損値を除いてグラフを作成するか、SAS/QC の CAPABILITY プロシジャを利用してグラフを作成してください。

欠損値の要約統計量が必要な場合には、欠損値を持つオブザベーションを除かずに、再度 UNIVARIATE プロシジャを実行してください。

SN-004475

IT Service Vision の PDB は下位互換性はありません。

IT Service Vision の PDB は上位互換性がありますが、下位互換性はありません。必要な PDB を作成もしくは修正した場合、以前のバージョンの IT Service Vision では使用できなくなります。

例えば、SAS 8.2 を使用して PDB の修正を行なった場合、SAS 6.09E、SAS 6.12 で PDB を使うことはできません。さらに、IT Service Vision client を使ってリモートの PDB へ接続したとき、IT Service Vision server の SAS のバージョンは、リモートの PDB を最後に更新したバージョンと同じ、もしくは以降のバージョンでなければなりません。

SN-004576

SQL プロシジャ内で IN 演算子を利用すると、不正な結果が返る可能性があります。

SQL プロシジャで IN 演算子を使用すると、不正な結果となる場合があります。

これは、プログラムの最適化作業を行い、生成が行われたプログラム自体に問題があります。比較を行う数値変数の長さをデフォルトの 8 バイトより小さくすると、この問題が発生します。

次のプログラムは OS/390 上で問題が発生するプログラムです。他のプラットフォームで稼働させるには、プログラムを修正する必要があるかもしれません。

```
data work.a;
  length code 3;
  input code;
cards;
1
4
;
proc sql;
  select code in (2,4)
  from work.a;
quit;
```

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記のアドレスから入手できます。

<http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba13/82ba13.html>

SN-004659

ブール式の比較を含んだデータステップビューは間違った結果を返すかもしれません。

SAS System 8 のデータステップビューにおいて、数値表現にブール式を使用すると、結果が不正になります。ブール式の比較結果をある変数に割り当て、かつ次のステートメントでブール式の比較を行っている場合、この問題が発生します。

問題が発生するには次の様なプログラムの場合です。

```
DATA VW/VIEW=VW;
  X = 6;
  Y = X > 5;
  IF Z THEN W=10;
  *IF Z > 0 THEN W=10;
  PUT W= X= Y= Z=;
RUN;
DATA _NULL_;
  SET VW;
RUN;
```

"IF Z..."で条件を設定している2つの条件式は、異なった結果を生成します。

この問題を回避するには、"IF Z..."の2つめの形式を使います。
つまり、上のコードでコメントアウトされている条件式です。

SN-005210

COMPUTE BEFORE の計算ブロックと FLOW オプションが同じグループ変数・順序変数に定義されている場合、LINE ステートメントが正しくデータを表示しない場合があります。

GROUP オプションもしくは ORDER オプションによりグルーピングされた最終行が有効なページより外れてしまっている場合、生成されたレポートが ODS LISTING ステートメントにより宣言されている範囲内で正しくない可能性があります。

特に、DEFINE ステートメント上でグループ変数あるいは順序変数に対して FLOW オプションが指定されている、かつ COMPUTE BEFORE による計算ブロックが同一のグループ変数に対して定義されている場合、計算ブロック内の LINE ステートメントはグループがブレイクするまでの妥当なアウトプットを生成する一方、ページ内で有効とする訳ではありません。いったん LINE ステートメントで定義されているデータが、この法則に則ってシフト(次ページに移動)してしまいますと、後続のグループもシフトされ続けます。

最終グループに対する LINE ステートメントの出力は欠落するか、適当な情報が含まれた状態(つまり、直前のグループで生成済みの内容が繰り返された状態)となります。

PAGESIZE オプションで調整を行えば、グルーピングされていない変数が次ページの最終行に出力されるので、計算ブロックの LINE ステートメントで定義されているデータが正しい順序で出力されることとなります。

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記のアドレスから入手できます。

<http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba36/82ba36.html>

SN-005211

BREAK AFTER もしくは COMPUTE AFTER の変数を指定したとき、ACROSS 変数の配下にあるいくつかの GROUP 変数の値は欠損値になる場合があります。

GROUP 変数が ACROSS 変数の下であったり、BREAK AFTER ブレイク変数あるいは COMPUTE AFTER ブレイク変数のどちらかであれば、GROUP 変数の値は、先頭以外の全グループが間違っただけで欠損値に設定されてしまいます。

BREAK AFTER ブレイク変数もしくは COMPUTE AFTER ブレイク変数を取り外すことにより、全てのデータは正しくなります。

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記のアドレスから入手できます。

<http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba36/82ba36.html>

SN-005225

NOZERO が指定された REPORT プロシジャは、ODS HTML のテーブルにおいて余計な列を生成する場合があります。

ODS listing において、DEFINE ステートメントに NOZERO オプションを指定したとき、ページ上ですべてが欠損値もしくは 0 である 1 列は、そのページの出カレポートで表示されないでしょう。ただし、これはページごとの制御なので、それと同じ列が他のページでは表示されることもあります。

ODS HTML においては、ページのサイズを決定する方法がないため、LISTING の PAGESIZE に適合するようにテーブルは生成されますが、その際にその PAGESIZE をどのように処理するかということは考慮されません。結果として、NOZERO オプションに当てはまる列がテーブルの終わりに余計な列として付加されてしまいます。

この問題を回避するには、REPORT プロシジャの PAGESIZE を大きくしてレポート全体が収まるようにするか、GROUP/ORDER 変数の1つに PAGE オプションを追加することによってグループごとに分離したページを作成してください。

SN-005226

REPORT プロシジャで 16 進数の null が使用された場合、変数の値が欠損値もしくは空白になります。

データの中に 16 進数の null が存在する場合、レポートの結果ではすべての列の値が null であるため、ブランクとして表示してしまいます。

回避策は、データから null を取り除く以外ありません。

SN-005261

ODS の CHARSET=オプションと ENCODING=オプションは、HTML や XML に出力される時無視されます。

CHARSET=オプションと ENCODING=オプションは、HTML と XML に出力される時無視されます。SAS レジストリでの CHARSET と ENCODING キーのデフォルト値の設定 (¥ODS¥Preference¥HTML¥CHAESET)もまた、SAS 8.2 では無視されます。

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記アドレスから入手できます。

http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/dbcs_v82fp.html#82ba51

SN-005432

FREQ プロシジャで BY ステートメントを利用して、グループ別の処理を行なった際の EXACT ステートメントに MC オプションを指定した際の p 値は正しいものではありません。

FREQ プロシジャで、一元表に対する正確な χ^2 乗適合度検定を行うために、TABLES ステートメントに TESTP=もしくは、TESTF=オプションを指定し、EXACT ステートメントにモンテカルロシミュレーションを行う MC オプションを指定した場合に、BY ステートメントを利用してグループ別の処理を行うと、最初のグループの結果は正しいものとなりますが、それ以降のグループの結果は正しくありません。

この問題の回避策としては、BY ステートメントを使用せず、WHERE ステートメントを使用してデータのサブセット化をしていただくことになります。

SN-005685

TABULATE プロシジャは、重み付けされている分析変数で、重み付けされていない百分率を生成する場合があります。

分析変数が VAR ステートメントで WEIGHT=オプションを使って重み付けされ、かつ、百分率の分母として使われているとき、TABULATE プロシジャは重み付けされていない百分率を間違えて生成する場合があります。重みは、計算に考慮されません。他の統計量が重み付けされた分析変数を利用して算出されている場合、重みが使われていない計算結果となります。

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記のアドレスから入手できます。

<http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba47/82ba47.html>

SN-005758

ブール式のロジックを使用した割り当てステートメントは間違った値を生成します。

ブール式による判定結果の値を変数に格納し、更に次のステートメントで算術式を用いて計算を行い、その結果欠損値になった場合、ブール式による結果は不正となり、欠損値が設定される場合があります。

算術式は、1つ以上の算術演算子(+、-、*、または/)を含んでいることが条件です。

次の例では、ブール式による結果を変数 D に正しく割り当てられません。

D には不正な欠損値が割り当てられます。

```
data _null_;
  input a b c;
  d=(a eq 0);
  e=(a*1)+c;
  put d= e=;
datalines;
0 0 .
;
```

次の出力が SAS ログに書かれます：

```
d=. e=.
```

この問題は、SAS 8.2 TS2M0 のみで起こります。

この問題を回避するためには、CONFIG ファイル内、もしくは SAS セッションの起動時で、次の OPTIONS ステートメントを指定します。

```
dsoptions=nomissopt;
```

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記のアドレスから入手できます。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba38/82ba38.html>

SN-005766

複数の ACROSS 変数が COLUMN ステートメントで指定されているとき、データの行は、REPORT プロシジャで出力されないことがあります。

ACROSS 変数がもう一つの ACROSS 変数のもとで指定され、更に DISPLAY 変数もしくは GROUP 変数がそれらの影響を受けているとき、データの行はレポート内に表示されない場合があります。

出力するレポートから行が不正に除かれていても、問題を指摘する SAS LOG の中で生成される WARNING、ERROR、NOTE はありません。

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記のアドレスから入手できます。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba36/82ba36.html>

SN-005767

ネストされている ACROSS 変数が利用され、かつ内側のネストしている ACROSS 変数の右側に変数が指定されているとき、SAS は異常終了します。

変数が ACROSS グループの右側に指定されていたり、双方が他の ACROSS グループのネストとなっている場合、システム固有の異常終了が起きます。

構文は、一般的にこの形式です。

```
GROUP1 ACROSS1,(var1 var2 ACROSS2,var var3)
    しくは
GROUP1 ACROSS1,(var1 var2 ACROSS2,(var var4) var3)
    しくは
GROUP1 ACROSS1,(var1 var2 ACROSS2,(var var4) ACROSS3,var5 var3)
```

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記アドレスから入手できます。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba36/82ba36.html>

SN-005770

行の変数の値は、ある条件のもとで、誤った変数の行に出力される場合があります。

次のすべての条件が当てはまる場合、ACROSS 変数の右側にある変数は、更に右にシフトされません。

- 1) 計算された数値変数が ACROSS のもとで指定される。
- 2) ACROSS のもとでの最後のグループがその行で全て欠損値を持つ。
- 3) ACROSS データの右側に少なくとも1つの列が入力データセットから来る

ACROSS 変数の最後のグループのもとで、それぞれの欠損値が計算された変数の値は、入力データセットから提供されているすべての列をシフトさせます。

このシフトによって、左側の列はゼロで埋められます。それに加えて、シフトが起こるたびに、入力データセットからの右端の列にある正しい値は失われることになります。

場合によっては、値が割り算の分母として使われるときに、ゼロ除算の WARNING を引き起こすことがあります。

この問題に対する SAS 8.2 TS2M0 の hot fix は下記のアドレスから入手できます。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba36/82ba36.html>

SN-005813

ODS PRINTER もしくは ODS PDF ステートメントで COLUMNS=を指定した場合に、データが損失する結果になることがあります。

ODS PRINTER か ODS PDF のどちらかのステートメントで COLUMNS=オプションを使用したとき、偶数の番号がつけられたデータの初めの2行は、レポートから間違っ失われてしまいます。間違っ出力に伴う error、warning、note はありません。

問題が発生するプログラム例は以下の通りです。

```
data one;
  do x=1 to 300;
    output;
  end;
run;
ods printer file='test.ps' columns=4;
proc print data=one;
run;
ods printer close;
```

この問題の回避策はありません。不適切な動作を避けるため COLUMNS=オプションを取り除いてください。

SN-006212

HP-UX 上の SAS 8.2 NLS バージョンの SAS で、Locale Setup Window が空白になります。

HP-UX のウィンドウで SAS8.2 の NLS バージョンの Locale Setup Window を起ち上げたとき、空のリストボックスが表示されるかもしれません。

エンコーディングを”Latin9”に設定してしまう SAS オプションによるものです。

この現象は、LOCALE=オプションが西ヨーロッパ地域に設定されているときに発生します。これは、次の地域で適用されます。

Danish 、 English_Britain 、 English_Ireland 、 Finnish 、 French_Belgium 、 French_France 、 French_Switzerland 、 German 、 German_Austria 、 German_Germany 、 German_Switzerland 、

Italian、Italian_Switzerland、Norwegian、Spanish、Spanish_Spain、Swedish.これらの地域設定では、ENCODING=オプションが自動的に Latin9 に指定されるためです。

この問題は、HP-UX にのみ再現するもので、ENCODING=オプションが Latin9 に(ロケールの設定のために)自動的に設定された場合でも、明示的に設定された場合でも再現します。

この問題を回避するためには、LOCAL=オプションはそのまま、ENCODING=オプションを Latin1 に設定してください。これによって、セットアップウィンドウを使用し、SASUSER.PROFILE で環境設定を正しく保存することが可能となります。

一度上記の設定を終えれば、SAS を終了しても正しいロケールの設定で再起動することができます。また、ロケール設定ウィンドウは空白に戻りますが、これらの設定の変更は残ります。

次のようなコマンドで起動時にオプションを設定できます。

```
sas -encoding latin1
```

SAS/ACCESS(共通)

HP-UX11i 上では SASSETUP メニューによる RDBMS に対するオンサイトリンクが出来ません。

HP-UX11i 上で RDBMS に対して接続を行われる場合は、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

SN-001857

SAS V8 TS0M1 の SAS/ACCESS をインストールしている時にインストールエラー

SAS/ACCESS で SASSETUP 中から環境設定を行う際、バリデーションテスト中に次のようなメッセージが画面に表示される場合があります。

```
Running validation tests for SAS/ACCESS ORACLE...
Moved file /usr/local/sas8/sasexe/oralx730 to
/usr/local/sas8/sasexe/sasora.
egrep: can't open /usr/local/sas8/sastest/testorl.log
```

```
ERROR: SAS/ACCESS ORACLE failed the validation test.
Please check the log files
/usr/local/sas8/.install/logs/sastest_1000320.000
and /usr/local/sas8/sastest/testorl.log for errors.
```

このとき、次のログファイル内には、

```
"/usr/local/sas8/.install/logs/sastest_1000320.000",
以下のような記述があります。
```

```
ERROR: Cannot open "/usr/local/sas8/sastest/sasv8.cfg":  
No such file or directory
```

また、/usr/local/sas8/sastest/testorl.log が存在しない場合があります。

回避策として、ファイル !SASROOT/maint_0M1/sasv8.cfg を
ディレクトリ!SASROOT/sastest にコピーし、SAS/ACCESS の環境設定を再実行してください。

SN-004969

LIBNAME ステートメントを使い DBMS へのクエリー処理を行った場合、不正な結果となる場合があります。

SAS 8.2 において、LIBNAME ステートメントのエンジン経由で他 DBMS への接続を行い、クエリーを投入した場合、不正なレコード数が返ってくることがあります。この問題は、WHERE 句の使用、WHERE データセットオプションの使用、あるいは WHERE ステートメント(SAS 関数を含む)の使用で単一あるいは複数の条件を指定している場合に発生します。以下の様な WHERE 条件が発生する例です。

```
LIBNAME oralib ORACLE USER=scott PASSWORD=tiger;  
  
DATA one ;  
  SET oralib.employees ;  
  WHERE jobcode='CP' and month(hiredate)=5 ;  
QUIT ;
```

この例では、WHERE 条件で条件式を記述し、JOBCODE='CP'を DBMS に発行しています。この条件に合致したレコードが SAS に渡されますが、MONTH(HIREDATE)=5 の条件は前条件で絞り込まれたサブセットに対して適用される必要があります。

SAS 8.2 では 2 番目の条件式が絞り込まれたサブセットに対して有効になりません。

SAS 8.2 TS2M0 ではこの問題に対する HotFix が提供されています。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba29/82ba29.html>

SAS/ACCESS Interface to SYBASE

SN-004054

SAS System 8 においてクォート処理を可能にすると、SAS System 6 との互換性がなくなる可能性があります。

SAS System 8 においてはクォート処理を行うのがデフォルトとなっています。
SAS System 6 においてはクォート処理を行わないのがデフォルトとなっています。

もしクォート処理が有効であると、SAS/Access Interface to SybaseとSQLプロシジャ使用時に、データをダブルクォートで囲むことができません。

これはリテラルな文字列としてシングルクォートを使わざるを得ないという制限を引き起こし、結果文字列にシングルクォートを混在させることはできません。

SAS System 7 もしくは SAS System 7 以降でクォート処理を無効にするために、SAS 8.2 もしくはそれ以降で、環境変数が用意されています。

クォート処理を不可とするための環境変数は以下のように指定します。

UNIX の場合> `export SYB_SAS_V6PASSTHRU=1`

Windows の場合> `set SYB_SAS_V6PASSTHRU 1`

SN-004148

SAS System 8 においてクォート処理を可能にすると、SAS System 6 との互換性がなくなる可能性があります。

SAS System 8 ではデフォルトでクォート処理が有効になっています。

これにより、SAS/ACCESS Interface to Sybase への SQL パススルーに問題が発生します。

文字データ中にシングルクォートが存在し、かつ文字列全体をダブルクォテーションで囲んでいる場合に発生します。

以下のような例になります：

```
execute (insert into foo values ("Here's a test")) by sybase;
```

以下に示された変数を設定することで、

引用処理を不可にし、SAS System 6 の処理と同じ処理方法に戻ります。

PC の場合：

```
set SYB_SAS_V6PASSTHRU 1
```

UNIX の場合：

```
export SYB_SAS_V6PASSTHRU=1
```

SAS/ACCESS Interface to Teradata

SN-005682

ERROR: Teradata connection: MOSI: ER_LINKDOWN(130):DBC Connection broken or connect failed

SAS/ACCESS Interface to Teradata は、SAS メディアからロードした際にインストールされますが、正しい SAS 実行ファイルを起動しないと、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR: Teradata connection: MOSI: ER_LINKDOWN(130): DBC Connection
```

broken or connect failed

正しい SAS 実行ファイルをデフォルトで起動するために、HPUX 11 上に SAS をインストールした後、以下のコマンドを発行してください。

- 1) cd <SAS Home Directory>
- 2) mv sas sas.orig
- 3) ln -s sabhhpt sas

SAS/AF

SN-004155

コンボボックスを選択し、列をスクロールするために PageUp/PageDown キーを使うと、コンボボックス内に表示される値が不正な場合があります。

SAS/AF フレームエントリのフォームビューアコントロールあるいはデータフォームオブジェクトの中で、コンボボックスに変数を関連付け、PageUp あるいは PageDown キーを使って変数を操作した場合、次の行へとカーソルが移動するはずですが、PageUp あるいは PageDown キーは使用中のコンボボックス自体にもその情報を送るので、結果その値がスクロールされ、変数の値が更に変更してしまうという現象が発生します。列の編集をキャンセルするしないに関わらず、変数に対する新しい値が次の行に移った瞬間に保存されてしまいます。

PageUp あるいは PageDown キーを使ってスクロールする代わりにデータフォームあるいはフォームビューのポップアップメニュー、あるいは _vscroll メソッドを埋め込んだボタンを使って次の行を選択することで、この現象を回避できます。

SAS 8.2 TS2M0 ではこの問題に対する HotFix が提供されています。

<http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba23/82ba23.html>

SAS/CONNECT

SN-005694

SAS/CONNECT リモートライブラリサービス経由で WHERE 句を持つ VIEWTABLE、テーブルビュー、データテーブルは、正しくない結果をもたらす可能性があります。

リモート経由で一度に SAS データセットの一行をスクロールし、SAS データセットモデルのテーブルビューコントロール、SAS/AF FRAME エントリ内のデータテーブルオブジェクト、ビューテーブルウインドウのいずれかを使用した場合、列が誤って消失する場合があります。

以下の条件を全て満たすと、この問題が発生します：

1. SAS/CONNECT のリモートライブラリサービス経由でリモートライブラリを割り当てられている。
2. リモートデータセットが編集モードで開かれている。

3. データセット中に 1 つか、それ以上のインデックスが存在する。
4. インデックス変数が WHERE 句で使われている。
5. WHERE 条件抽出結果の列が一つの画面の中にすべて入りきらない。

この問題を回避するためには、処理から上記の条件の一つを取り除いてください。

他の代替手段として次のようなものが含まれます：

データセットを FSVIEW ウィンドウで見る、VIEWTABLE ウィンドウの表示モードを使う、SAS データセットモデル、またはデータフォームオブジェクトのフォームビューアを使用する。

SAS/EIS

SN-000016

「名前を付けて保存」または「保存」が正しく機能しない可能性があります。

SAS/EIS において、「ファイル」のプルダウンメニューから「名前を付けて保存」または「保存」を選択しても、正しく機能しないか、ウインドウ中の全てのオプションを選択しない限り実行不可能になる可能性があります。

SN-000017

レポートを表示するための十分なデータ列がありません。

SAS/EIS の Graphical Variance Report を作成していると、次のようなエラーメッセージが表示される場合があります。

There are not enough of the requested data columns available to display the report.

SAS 6.12 で作成された Graphical Variance Report アプリケーションでは実行を続けることができます。

SN-000018

3D Business グラフでは全てのバーの色が同じ色にセットされます。

SAS/EIS では、カスタマイズウインドウやそれ以外で 3D ビジネスグラフのバーの色をセットしようとすると、全てのバーの色が同じ色にセットされてしまう可能性があります。

同じ編集セッション内ならば、3D ビジネスグラフの編集をしている間に行われる、どんな変更も「CANCEL」ボタンで取消できます。

SN-000019

SAS/EIS には、リポジトリ・マネージャと SASHELP リポジトリが必要です。

SAS/EIS を実行する前に、リポジトリ・マネージャと SASHELP リポジトリのセットアップを事前に行う必要があります。

この時 SASHELP リポジトリは全て大文字で指定してください。

インストレーションガイドには、SAS/EIS とリポジトリマネージャを使用するにあたっての指定に関する詳しい情報が掲載されています。

さらに、SAS System 6 の SAS/EIS メタベースを、SAS System 8 以降で使用するために変換しなくてはなりません。

この情報についてもインストールガイドに記述があります。

SAS/EIS メタベースは、連結したライブラリに格納しないことを推奨しています。

もしメタベースが SASHELP のように連結ライブラリにあると、リポジトリは、リポジトリの名前がライブラリの名前となるように、またパスの値がメタベースファイルを含む実際の物理パスとなるように定義しなくてはなりません。

メタベースを構成する全てのファイル(データセット、インデックス、カタログ)は、同じパスになければなりません。

1 つのパスに存在する 1 メタベースのみ 1 度に変換できます。

SN-000020

最初のサブセットで指定された変数は、トータルに表示されません。

もし SAS/EIS MDDDB based Multidimensional Report に最初のサブセットを指定すると、作成されたレポートはサブセットを含みます。

しかしながら、最初のサブセットに指定された変数の合計は表示されません。

SN-000026

ダウンロードサーバ上にあるデータセットを使った HOLAP グループは、使用できません。

SAS/EIS において、ダウンロードサーバにあるデータセットを参照する HOLAP グループを定義しても、それらを使用することはできません。

SN-000027

SAS/EIS を実行している間、ウィンドウが正常に更新されない可能性があります。

SAS/EIS を複数のダイアログウィンドウを使用する場合、ウィンドウを閉じると、その下にあるウィンドウの内容は、更新されない可能性があります。

この問題を回避するためには、xrefresh クライアントや、X ウィンドウマネージャによって提供されている更新機能を使用することでウィンドウを更新してください。

SN-002500

Dimension Navigator は、有効な分類値のリストを表示しない可能性があります。

SAS/EIS の Application Screen Builder object 上の Dimension Navigator の下矢印を選択しようとすると、有効な分類値のリストが表示されず、LOG ウィンドウに次のようなエラーメッセージが表示される可能性があります。

```
** Line 1196: [ERROR: #207] Calling function LVARLEVEL.  
ERROR: Must use a legal SAS name.  
Arguments passed to LVARLEVEL:  
1 num=4  
2 varname=  
3 numlevels=0  
4 values=35757  
Program returning prematurely at line 1196  
AF Program: SASHELP.MDDB.EMDDB_M4.SCL
```

この問題は、大文字と小文字が混在する列名が Dimension Navigator で選択された次元の分類変数に使用されているために起こります。

内部仕様では、変数名は大文字へ変換されるため、混ざり合った、または小文字の変数名を発見することができません。

問題を回避するためには、全て大文字の変数名でデータセットを作成してください。

SN-005670

WebEIS でブックマークを使用すると、計算された値のフォーマットは参照されません。

もし AppDev Studio の WebEIS でドキュメントを作成し、計算された値に「Measures」でフォーマットを設定し、それをブックマークに保存すると、ブックマークから参照したときレポートは計算された値は表示しますが、値はフォーマットされません。

この問題の SAS 8.2 TS2M0 に対する修正モジュールは、以下のサイトから入手可能です。

<http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/base/82ba06/82ba06.html>

SAS/ETS

SN-004381

ARIMA プロシジャにおいて、同一の IDENTIFY ステートメントに CROSSCORR=オプションの指定と併せて STATIONARITY、MINIC、ESACF、SCAN オプションのいずれかが指定された場合、これら4つのオプションに対する計算結果が間違ったものになります。この問題を回避するためには、CROSSCORR=オプションと上記4つのオプションとを、2つの IDENTIFY ステートメントに別々に指定してください。

例:

```
proc arima data=test;
  identify var=y(1) crosscorr=x ;
  identify var=y(1) minic scan;
run;
```

Enterprise Miner

Enterprise Minerの [入力データソース]ノードで、サンプルデータセットを指定する方法

[入力データソース]ノードを開いて、データに SAMPSIO ライブラリにあるサンプルデータセットを指定するためには、直接データセット名(例、SAMPSIO.ASSOC)を入力してください。

「データの選択」ボタンを押しても、SAMPSIO ライブラリは選択できません。これは、SAMPSIO がライブラリ参照名として割り当てられておらず、SAMPSIO 環境変数がライブラリ参照名として利用されるためです。

SAMPSIO 環境変数は設定ファイル(!SASROOT/nls/ja/sasv8.cfg)で設定されます。

Enterprise Miner では、データセットの変数名の長さは16バイト以下に設定する必要があります。

変数の長さが16バイト以上の場合で、16バイト目がダブルバイト文字の場合、フロー内の処理にエラーが発生することがあります。この場合はあらかじめ変数の長さを16バイト未満にしておく必要があります。

SN-003568

[アソシエーション]ノードの[時間制約]タブの「トランザクションウィンドウの長さ」を指定すると Sequence(逐次)に設定した変数の値が認識されない場合があります。

[アソシエーション]ノードの[時間制約]タブの「トランザクションウィンドウの長さ」は、デフォルトでは「最大間隔」に設定されています。

設定を「使用する間隔を指定する」に変更した場合、SEQUENCE(逐次)に設定した変数の値が正しく認識されない場合があります。

その場合、正しい逐次関係の分析が行われませんので、出力される「Confidence」「Support」の値は間違ったものとなります。

下記の 1) 2)のような場合には、アソシエーションの結果は、間違ったものになります。

1) ID 変数の 1 つの水準の間(顧客 1 人あたり)で、同じ Target 変数(商品)の値が複数含まれている。(1人で複数の同じ商品を買物している場合)

2)「使用する間隔を指定する」で指定した間隔が、顧客 1 人あたりが同じ商品を購入する Sequence 変数の間隔より小さい、もしくは同じ間隔に指定している

以下に問題の発生する具体例を記載します。

1 人の顧客(ID)が、店で6回に渡り異なった商品(A B C D E)を購入した場合

VISIT(来店回数) TARGET(購入した商品)

1	A
2	B
3	C
4	D
5	A
6	E

A の商品は繰り返し購入されています。「トランザクションウィンドウの長さ」を次の A の商品を購入する時間間隔より小さいもしくは同じ値(この例の場合は 4)と設定されている場合には、A を再購入後の E を購入する時間間隔を認識しません。

この問題を回避するためには、[時間制約]タブの「トランザクションウィンドウの長さ」を「最大間隔」に設定(デフォルトの設定)にしてください。

SN-004968

複数の値を置き換える場合、[データ置き換え]ノードの結果がデータの並び順に依存する可能性があります。

複数の値を置き換える場合、[データ置き換え]ノードの結果がデータの並び順によって変わってしまいます。

この問題は、複数の値が同時に置き換えられる時に、置き換えられた後の値が、置き換えられるべき値となる場合に発生します。

例えば、データセットに A、B、C、D の値があり、以下のように B または X で置き換えようとしています。

A -> B
B -> X
C -> B
D -> X

置き換え後の値「B」が、次の条件で置き換えられるべき値となっています。これらの置き換えが順番に行われた場合、最初の条件で「A」は「B」に置き換えられ、次の条件では「B」が「X」に置き換えられてしまいます。結果として、以下の様な誤ったデータセットができます。

X (本当は B となるべき)
X
B
X

この問題が起きても、エラーや警告は一切表示されません。この問題の回避策はありません。
この問題が発生したことを知るには、データを参照して置き換えの正誤を確認してください。

Release 8.2 TS レベル 2M0 のこの問題に対するテクニカルサポートの修正モジュールは、以下から入手可能となっています。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/dmine/82dt01/82dt01.html>

SN-005327

[データ分割]ノードを利用した場合、元データの並び方に依存した結果を返します。

[データ分割]ノードは、ランダムに [学習]データ、[検証]データ、[テスト]データを選択しません。データセットの割合において、[データ分割]ノードは、[テスト]データのオブザベーションの大半を、元のデータセットの最初(もしくは最後)の方から選択します。また、[学習]データと[検証]データは、データの大部分を元のデータセットの最後(もしくは最初)の方から選択します。

もし、元のデータセットが何らかの変数でソートされていたり、グループ別になっていたりランダムではない場合には、[データ分割]ノードでは、偏った[学習]、[検証]、及び[テスト]データを作成してしまい、それを元に分析を行うこととなります。

この問題の回避策としては、元のデータをランダムに並び替え、そのデータを利用して[データ分割]ノードを利用していただくこととなります。

SN-006161

[ニューラルネットワーク]ノードで、ターゲット変数の標準化を選択した場合の予測値は正しくない可能性があります。

[ニューラルネットワーク]ノードで、ターゲット変数に対して「STANDARD」・「DEVIATION」・「RANGE」・「MID RANGE」のいずれかの標準化を設定した場合、入力変数に欠損値がふくまれているオブザベーションに対する予測値は正しくないものとなります。

ターゲット変数の標準化は、[ニューラルネットワーク]ノードの[詳細設定]タブの[ネットワーク]画面でターゲット変数を選択し、[右クリック]-->[プロパティ]の[標準化]のプルダウンメニュー部分で変更できます。

SAS 8.2 TS2M0 のこの問題に対するテクニカルサポートの修正モジュールは、以下から入手可能となっています。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/dmine/82dt04/82dt04.html>

SAS/GRAPH

SN-004120

UNIX 64 ビットマシン上でビデオプレーヤーを使用すると、Segmentation Violation が発生する場合があります。

ファイルをビデオプレーヤーで閲覧しようとする、次のようなエラーが発生する可能性があります。

```
Segmentation Violation occured in task (SAS Expl)
ERROR:  Generic critical error
```

現在のところ、この問題に対する回避策はありません。

SAS Integration Technologies

SN-005789

DBCS(ダブルバイト文字)が使われている場合、配信に失敗してしまう可能性があります。

SAS/Integration Technologies によって配信しようとする、次のようなエラーが発生し、失敗してしまう可能性があります。

```
ERROR: ARCHIVE transport engine encountered errors while publishing
the package Publish of package failed - WARNING: A character that could
not be transcoded  was encountered
```

この問題は、DBCS システムオプションが使用されている時に圧縮ファイル、または WebDAV サーバに配信しようすると発生します。

SAS 8.2 TS2M0 のこの問題に対するテクニカルサポートからの修正モジュールは、以下の場所から入手可能となっております。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82fp.html>

Integration Technologies 製品項目にある修正モジュール「82IH03」を選択してください。

SAS/IntrNet

SN-001272

ブランクを含む階層名を使用すると、不完全なテーブルが作成される可能性があります。

SAS/IntrNet の MDDDB Report Viewer を使用して、選択した階層名にブランクを含んだ HTML レポートを作成しようとする、不完全なテーブルができてしまう可能性があります。

この問題を回避するために、階層名にはブランクを含めないようにしてください。

SAS/LAB

SAS/LAB でグラフを作成する場合には、日本語フォントの設定を行う必要があります。

SAS 8.2 の SAS/LAB において、デフォルトでは、グラフのフォントとして英文字用の simplex が指定されています。

そのままの設定では、グラフにおける日本語表示が文字化けします
(注: 日本語フォントを設定しても一部分の文字化けは回避できません)。

SAS/LAB のグラフフォントは、次の手順で設定できます。

- (1) SAS/LAB を起動した状態で、Locals(L)メニューから[Setup(S)...]項目を選択します。
- (2)[LAB: Setup]ウィンドウにて、Graphics options and devices を選択します。
- (3)[LAB: Graphics Settings]ウィンドウが呼び出されますので、そこで「Text Font:」の[Set]プッシュボタンを押します。

なお、上記の設定をしたとしても、共分散分析や重回帰分析において class に指定した変数の日本語文字が文字化けをする問題があります。

SAS MDDB Server

SN-005245

MDDB プロシジャから読み取り違反エラーの発生

MDDB を作成するために MDDB プロシジャを実行すると、次のようなエラーが発生する可能性があります。

```
ERROR:  Read Access Violation In Task [ MDDB ]  
Exception occurred at [63B1CFFA]
```

2つの回避策があります。

- 1.それぞれの hierarchy ステートメントにて TOTAL=YES を使用しない
- 2.最も詳細なものから最も詳細でないものへ hierarchy ステートメントを並べ替える。

これによりパフォーマンスも向上します。

SN-005961

Enterprise GuideにおいてMDDB作成タスクを使用すると、"**library.cube(repository)**"が開けない。

Enterprise GuideにおいてMDDB作成タスクを使用すると、以下のようなエラーメッセージが表示される場合があります。

Unable to open "library_name.cube_name(repository_name)" data.

SAS 8.2TS2M0 のこの問題の修正モジュールは、以下の場所から入手可能となっております。

<http://www.sas.com/techsup/download/hotfix/v82fp.html>

SAS/MDDB Server 製品項目の修正モジュール 82MX01 を選択してください。

SAS/OR

SAS/OR の QSIM (Queing SIMulation)アプリケーションでは、メニューからのドラッグ & ドロップが行なえません。

SAS/OR プロダクトの QSIM (Queing SIMulation)アプリケーションでは、[Pallette]ウィンドウからのドラッグ & ドロップが行なえません。ワークスペース上で右クリックを押すことによって呼び出されるポップアップメニューから選択を行なってください。

なお、"QSIM"は、[ソリューション]メニューの[データ解析]項目から、[待ち行列シミュレーション]を選択することによって呼び出されるアプリケーションです。

SAS/OR の QSIM (Queing SIMulation) および PROJMAN (PROject MANagement) アプリケーションでは、場合により、アプリケーションが異常終了することがあります。

SAS/OR プロダクトの QSIM (Queing SIMulation) および PROJMAN (PROject MANagement) アプリケーションにおいて、ラジオボタン、プッシュボタン、チェックボックス右周辺を左クリックしていると、ログウィンドウに以下のメッセージが出力されることがあります。また、場合により、アプリケーションが異常終了する時があります。

ERROR: 読み取りアクセス違反 : タスク (Queueing Simulation]

(01EF6B0C) での例外発生

Task Traceback

ERROR: ERROR: *** SIGNAL received ***.

ラジオボタン、プッシュボタン、チェックボックスの真ん中をきちんとクリックした場合には、上のようなエラーは生じません。

周辺をクリックするのではなく、ボタンやボックスの中心を左クリックしてください。

SAS/QC

SN-005427

RELIABILITY プロシジャで **FMODE** ステートメントを使用した場合の結果は正しいものではありません。

FOMODE ステートメントは、ANALYZE、MODEL、PROBPROT、RELATIONPLOT ステートメントを指定して出力されるすべての結果に影響を与えます。

この問題は、次期バージョンで解決される予定です。

SAS/SHARE

SN-004509

SAS/SHARE サーバは、**ホストセキュリティーファイルアクセス**に失敗する可能性があります。

SAS System 8 の SAS/SHARE において、クライアントのアカウントがデータセットのアップデートを行うための正しいファイル権限を持っていなくても、SAS/SHARE サーバを通して SAS データセットをアップデートできてしまう可能性があります。

この問題は、以下の条件がすべて当てはまる時のみに発生します：

- 1.サーバのセッションが、TCPSEC=_SECURE_、AUTHENTICATE=REQUIRED オプションが指定されて実行されている。
- 2.適切な読み書き権限があるクライアントのアカウントが、サーバを通してアップデートを行うためにデータセットを開いている。
- 3.適切な読み書き権限のあるクライアントがアップデートのためにデータセットを開いている間、適切なファイル権限をもたない他のクライアントアカウントが同じデータセットを更新のために開くことが可能となる。

読み書き権限のあるクライアントがインプット(読み込み)のためにデータセットを開いている場合には、他のユーザによる以降のアクセスがそれぞれのファイル権限によって正しく制御され、正しいアクセスが権限が適用されます。

SAS 8.2 TS2M0 のこの問題に対する修正ファイルは、以下の場所から入手可能です。

<http://www.sas.com/techsup/download/dbcs/hotfix/v82/base/82ba45/82ba45.html>

SN-005697

VIEWTABLE、Table Viewer、Data Table を使用して SAS/SHARE リモートライブラリのデータを参照する場合、WHERE 条件節が正常に機能しない可能性があります。

リモートの SAS データセットを以下のコンポーネントを使用して一行ずつスクロールした時 SAS データセットモデルとテーブルビューワコントロール、SAS/AF FRAME エントリ内のデータテーブルオブジェクト、VIEWTABLE ウィンドウを使用した時は、リモートデータセットの行は誤って省略されてしまう場合があります。

以下の条件をすべて満たした場合、この問題が発生します。

1. リモートデータライブラリが SAS/SHARE サーバを通して割り当てられている。
2. リモートデータセットが編集モードで開かれている。
3. 一つもしくはそれ以上のインデックスがデータセットに存在する。
4. インデックス変数に WHERE 条件が適用されている。
5. WHERE 抽出結果の列の数が一つの画面に収まりきらない。

この問題を回避するためには処理から上記の条件のうちの一つを取り除いてください。

他の回避策は以下ようになります。

FSVIEW ウィンドウでデータセットを閲覧する、VIEWTABLE ウィンドウの表示モードを使用する、SAS データセットモデル、またはデータフォームオブジェクトをフォームビューアで閲覧する。

SN-005745

バージョン 6 のデータセットのヘッダーがアーキテクチャが異なる SAS System 8 の SAS/SHARE クライアントによって、破壊される可能性があります。

存在するバージョン 6 データセットにアーキテクチャの異なるクライアントーサーバ環境、(EBCDIC-to-ASCII もしくは ASCII-to-EBCDIC)にある SAS System 8 SAS/SHARE サーバのもとで書き込みを行うと、データセットが損傷を受けるかもしれません。

変数名、フォーマット・インフォーマット名、ラベルのように文字値を使用するデータセットのヘッダー属性がシステム(クライアント)からのランダムな文字やシンボルによって置き換えられてしまうのが原因です。

バージョン 8 データセットに書き込む時には、異なるアーキテクチャの環境でも、この問題は起こりません。

また、同じアーキテクチャのクライアントーサーバ環境の場合でも、この問題は起こりません。(EBCDIC-to-EBCDIC もしくは ASCII-to-ASCII)

現在のところ、この問題に対する回避策や修正ファイルはありません。

SAS/STAT

SN-002467

LOGISTIC プロシジャにおいて、**MAXTIME=**オプションで十分でない時間を指定した場合、正確なパラメータ推定値が誤ったものとなります。

LOGISTIC プロシジャで、EXACT ステートメントに ESTIMATE および JOINT オプション(もしくは JOINTONLY オプション)を指定した場合で、PROC LOGISTIC ステートメントにおける EXPECTATIONS オプションの MAXTIME=で指定された時間が正確なp値を計算するのに十分でない場合、正確なパラメータ推定値および正確なオッズ比が、本来は欠損値として表示されなければならないところが、それぞれ 0,1 と誤って表示されます(p 値や信頼区間などは欠損値が出力されます)。OUTEST=で指定したデータセットにおける正確なパラメータ推定値も 0 と誤って出力されます。また、_TYPE_='EPARMMUE' であるオブザベーションにおける _STATUS_ 変数の値も '0 converged' と誤って出力されます。

SN-004612

SURVEYMEANS プロシジャで、**TOTAL=**オプションもしくは **N=**オプションに **DATA=**オプションに指定したデータセットと同じデータセットを指定した場合の結果は、正しくない場合があります。

層ごとの全体数のことなる層別抽出を行っている場合に、SURVEYMEANS プロシジャで層ごとの全体の数として、DATA=オプションで指定したデータセットと同じ _total_ 変数の値の含まれるデータセットを、TOTAL=もしくは N=データセットオプションに指定した場合、CLASS ステートメントに指定した分類変数、もしくは、STRATA ステートメントに指定した層別変数に欠損値が含まれている場合の結果は、正しいものではありません。

下記のような ERROR メッセージを出力する場合がありますが、WARNING 等のメッセージを何も出力しない場合がありますので、ご注意ください。

```
ERROR: Population total X for stratum Y in data set <data set name>  
is smaller than the sample size Z.
```

この問題は、指定したデータセットの _TOTAL_ 変数が、層の標本数よりも小さい場合に生じます。

この問題の回避策としては、DATA=オプションに指定するデータセット名と TOTAL=もしくは、N=に指定するデータセット名を異なる名前のデータセットにする必要があります。下記の例のようにデータセットの名前を変更して、使用してください。

```
proc surveymeans data=one total=one;
```

■上記のようにプログラムを実行したい場合。

次のようにデータセット名を変更して、SURVEYMEANS プロシジャを実行してください。

```
/**新しいデータセット名の指定**/  
data pop_totals;
```

```
set one;
run;

/**SURVEYMEANS プロシジャの実行**/
proc surveymeans data=one total=pop_totals;
```

SN-005280

CALIS プロシジャの MATRIX ステートメントで、[,] の表現を利用すると正しくモデルを指定できません。

CALIS プロシジャの MATRIX ステートメントでは、[i,j]というように行列の位置を指定することができます。

しかし、下記の例(1)のように [,] というように、数値を指定しなかった場合には、(2)のモデルと同じモデルを指定していることにはなりません。

- (1) MATRIX PHI [,] = 10*COV;;
- (2) MATRIX PHI = 10*COV;;

(1)のように指定したモデルの結果は、WARNING もしくは、ERROR メッセージを出力しませんが、正しい結果ではありません。

この問題の回避策としては、(2)のように指定していただくことになります。

SN-005560

OUTPUT ステートメントを用いて出力する標準誤差が誤ったものとなる可能性があります。

GENMOD プロシジャにおいて次の指定を同時に行った場合、出力される標準誤差と信頼区間は正しいものではありません。

- 1)MODEL ステートメントで DIST=MULT と多項分布を指定する
- 2)REPEATED ステートメントを使う
- 3)MODEL ステートメントで OBSTATS オプションを指定する、または OUTPUT ステートメントを使用して、標準誤差と信頼区間を算出する

この問題に対する Release8.2 TS レベル 2M0 のテクニカルサポートからの修正モジュールは、以下の場所から入手可能となっております。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/stat/82st06/82st06.html>

SN-005660

MAXSEARCH= オプションを使用した場合、正しくない結果が得られる可能性があります。

VARCLUS プロシジャにおいて、MAXSEARCH= オプションを PROC VARCLUS ステートメントにおいて指定し、同ステートメントにおいて CENTROID オプションを指定しなかった場合には、全ての結果が誤ったものとなる可能性があります。

この問題に対する回避策はありません。

SN-005780

MIXED プロシジャにおいて、RANDOM、REPEATED 両ステートメントが使われている場合、DDFM=SATTERTHWAITE の指定によって誤った結果が出力される可能性があります。

RANDOM、REPEATED 両ステートメントを指定し、また X 行列と Z 行列の列の合計よりも REPEATED ステートメントで指定した効果の水準の方が大きい場合、DDFM=オプションで SATTERTHWAITE を指定した場合の結果が誤っている可能性があります。

この場合、「読み取り違反」のエラーが発生したり、SAS が異常終了することもあります。

誤った値となる可能性があるのは、Satterthwaite の自由度のみです。

その他の結果は正しいものです。

SAS 8.2 TS2M0 のこの問題に対するテクニカルサポートの修正モジュールは、以下から入手可能となっています。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/v82/stat/82st08/82st08.html>

SN-006019

FACTOR プロシジャで因子抽出法に最尤法(METHOD=ML)と ULTRAHEYWOOD オプションを指定し、共通性の推定値が 1 をより大きくなる場合の結果は、正しくありません。

FACTOR プロシジャで、METHOD=ML と ULTRAHEYWOOD オプションを指定し、最後の反復推定の共通性の推定値が 1 を越えた場合の因子分析のすべての結果は正しくありません。

以下にサンプル例を記載します。この例では、7 回の反復をおこなっており、最後の共通性の推定値が 1.03682 となっています。

METHOD=ML と ULTRAHEYWOOD オプションを指定し、共通性の推定値が下記の例のように 1 を越えた場合の分析結果は、正しくありません。

Iteration	Criterion	Ridge	Change	Communalities
-----------	-----------	-------	--------	---------------

1	0.3101369	0.000	0.0908	1.02913	0.79229
2	0.2976415	0.000	0.0371	1.02310	0.82653
3	0.2944623	0.000	0.0134	1.03226	0.81962
4	0.2936818	0.000	0.0081	1.03298	0.82736
5	0.2934573	0.000	0.0031	1.03548	0.82681
6	0.2933895	0.000	0.0020	1.03609	0.82872
7	0.2933679	0.000	0.0008	1.03682	0.82889

この問題に対する回避策はありません。

SN-006025

LIFEREG プロシジャにおいて区間打ち切りを指定した場合、PROBPLOT ステートメントを指定して出力される結果は正しいものでない可能性があります。

下記に記載する例のように、打ち切りに間隔がないデータを入力データとして、MODEL ステートメントに区間打ち切り(右側打ち切りと左側打ち切り)を model (x y)= の形で指定した場合、PROBPLOT ステートメントを指定して出力される結果は正しくありません。経験分布関数の Turnbull アルゴリズムを利用した反復推定結果は、間違ったものになります。

MODEL ステートメントで打ち切りのないオブザベーションを MODEL y=x のように指定した場合、そのデータは正確な故障時間を表わすことにはなりますが、区間打ち切りを指定した場合には扱いが異なります。

反復の履歴を表示するための ITPRINTEM オプションと累積確率を表示する PPOUT オプションを PROBPLOT ステートメントに指定した場合、ERROR メッセージが出力され、PROBPLOT ステートメントを指定した結果は誤ったものになります。

MODEL ステートメントを指定して出力される推定結果は、Turnbull アルゴリズムに影響されませんので、正しいものとなります。

この問題の回避策としては、打ち切りの間隔がないオブザベーションを「とても小さな打ち切り間隔」のあるオブザベーションとしてデータを加工し、LIFEREG プロシジャをもう一度実行することになります。

(下側打ち切り時間と上側打ち切り時間の値が同じ場合は、上側打ち切りの値にごく小さな値を足して、打ち切り間隔が生じているように下記のように設定することになります)

データを置き換えた場合は、PROBPLOT ステートメントに ITPRINTEM オプションと PPOUT オプションを指定して表示される結果は正しいものとなりますが、置き換え前とデータ置き換え後の対数尤度などの値は、異なったものになりますのでご注意ください。

■ 誤った出力がされる例

```
data data1;
```

```

input event ID value v0 f;
cards;
  1      22      6.00    6.0    1
  4      22      5.00    0.0    1
  5      22      1.00    1.00   1
  6      22      5.00    5.00   1
  7      22      5.00    0.0    1
  8      22      5.00    0.0    1
  9      22      5.00    0.0    1
 10      22      5.00    0.0    1
 11      22     14.4    14.4   1
 12      22      5.00    0.0    1
;

```

```

proc lifereg data=data1;
  model (v0 value)= / d=normal;
  probplot itprintem ppout ;
run;

```

■ 値を置き換えた回避策

```

data data1;
input event ID value v0 f;
cards;
  1      22      6.0001    6.0    1
  4      22      5.00      0.0    1
  5      22      1.0001    1.00   1
  6      22      5.0001    5.00   1
  7      22      5.00      0.0    1
  8      22      5.00      0.0    1
  9      22      5.00      0.0    1
 10      22      5.00      0.0    1
 11      22     14.401    14.4   1
 12      22      5.00      0.0    1
;

```

```

proc lifereg data=data1;
  model (v0 value)= / d=normal;
  probplot itprintem ppout ;
run;

```

上側の打ち切りに対して、小さな値を足しています。

SN-006439

BY ステートメントと AGGREGATE= オプションを共に使用すると出力する全ての結果は正しいものではありません。

GENMOD プロシジャで、BY ステートメントと MODEL ステートメントの AGGREGATE=オプションを一緒に用いた結果は正しいものではありません。

GENMOD プロシジャの MODEL ステートメントに AGGREGATE=オプションを指定し、BY ステートメントでグループ処理を行った場合、すべてのグループにおいて結果は正しいものではありません。

この問題の回避策としては、AGGREGATE=オプションもしくは、BY ステートメントのどちらかを使用しないようにする以外にありません。

また、GENMOD プロシジャを利用してロジスティック回帰や、プロビット回帰を行っている場合には、GENMOD プロシジャの代わりに LOGISTIC プロシジャの AGGREGATE=オプションを使用してください。

Scalable Performance Data Server

SN-005485

SPD Server で KEEP リストとカラムに対する ACL を使用した場合に、データに問題が発生します。

SPD Server テーブルに対するカラムへの ACL と共に KEEP 予測リストが使用された場合に正しくないデータが返ります。

Keep リストは明示的に KEEP や DROP ステートメントを使用しなくても作成されます。

一般的には PROC FREQ での VAR ステートメントや PROC SQL での SELECT 句は KEEP 予測リストを作成し、これが問題を引き起こします。

回避策として、予測リストの使用を防止するには次のように指定してください。

- 1) 次のステートメントを実行するプログラムに追加してください。

```
%let spdskeep=0;
```

又は、

- 2) 次のオプションを SPDSERV.PARM のファイルに追加してください。

```
NOKEEPALLOW;
```

このプログラムは SPD Server 3.00 TS M2 において修正されます。

次のプログラムにより、この問題を再現することができます。

/*

```

* MASTER being the table owner
*/
libname master sasspds 'test' user='master' passwd='spds30'
  server=localhost.5150;
/*
* Make some fake data
*/
data master.bugtest;
  length x 3 dcol $200;
  retain dcol "Drop this col";
  do i=1 to 10;
    x=i;
    output;
  end;
run;
/*
* Add column ACL on DCOL to hide from USER1
*/
proc spdo lib=master;
  set acluser master;
  list acl _all_;
  list acl _all_._all_;
  delete acl _all_;
  delete acl _all_._all_;
  add acl bugtest;
  modify acl bugtest/user1=(y,n,n,n);
  add acl bugtest.dcol;
  modify acl bugtest.dcol/user1=(n,n,n,n);
quit;
/*
* USER1 is a regular (0) user
*/
libname user1 sasspds 'test' user='user1' passwd='spds30'
  server=localhost.5150;
/*
* Print col X from test. It's got garbage in the listing.
*/
proc print data=user1.bugtest;
  var x;
run;
/*
* Shows SPDSKEEP=0 affect to workaround the bug. Now col X
* prints OK
*/
%let spdskeep=0;
proc print data=user1.bugtest;
run;

```

パッチの適用

日本語版を初めとする SAS の不具合を修正するための修正モジュール(HotFix)の入手および適用方法は、テクニカルサポートグループまでお問い合わせください。
修正モジュール(HotFix)は、下記のアドレスから入手することができます。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/hotfix.html>

使用上の注意点 (Alert Notes)
SAS 8.2 (TS2M0) HP-UX 版

2003 年 9 月 1 日 第3版第 1 刷発行
発行元 SAS Institute Japan 株式会社
〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ8F
電話 03 (3533) 3760

本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。

SAS テクニカルサポート
TEL: 03 (3533) 3877 FAX: 03 (3533) 3781
電子メール: support@jpn.sas.com